

「第80号」投稿

斉藤基樹氏の「イラクでの日本人質事件」の所見に反論する

仲條拓躬

「地獄の黙示録」のような様相を呈する恐れがある

前回のイラクでの日本人質事件での「自己責任論」は、国際社会では悪評でした。状況がどうであれ、同胞の救出にまず全力を尽くすのが国民から権限を付託された政府の責任です。4月の高遠さんたちの人質事件では、官邸や外務省は盛んに「自己責任論」を展開していたのに、今回、10月27日に起きた香田証生さん(24)の事件では、何故かその言葉は出ません。事件を機に自衛隊派遣批判が出るのを国は恐れ、世論向けに救出対策を行なっていると宣伝しているのです。

斉藤基樹さんは人質たちの行動を「大多数の自国民に向けられた冷厳な糾弾とあってよい」と言いますが、人質として拘束されたのは日本人であり、彼女ら日本人はイラクの人々にとっても友好的な市民です。日本政府の米国追随政策と憲法違反の自衛隊派遣がそうした事態を招いたのは明白なのです。真の国際社会に生きる人間として、嘘を見抜く力と感性を大切に、平和を希求する被害者を支援し、権力と米国の利害におぼれる我が国の愚かな政治家には決して騙されない市民の力を結束させて、これからの暗黒時代を阻止しなければならないと考えます。

対イラクの戦争は泥沼化され、米国は自国の利益、景気回復のためにベトナム戦争と同じ過ちを犯したのです。米国はいつ軍隊を撤退するかというタイミングを図る時期に入らなうでしょう。日本も自衛隊を派兵しているのでしょうか？ このままでは、フランシス・ Coppolaの「地獄の黙示録」の映画のようになってしまいます。

ブッシュ大統領が言う「解放」という大義名分は、西洋合理主義に対する絶対信仰からくるものですが、合理主義は一つの合理主義でしかなく、それに基づく合理的判断もしくは決断は、政治的、宗教的、経済的に確信を抱く人間の行動の前には脆くも崩れ去るものなのです。

世界帝国を築いたアレキサンダー大王やジンギスカンの二人に共通する成功した要素は、征服者として民族の宗教と慣習をそのまま承認したことです。合理主義から見れば、世の中には不合理と不条理に満ち溢れています。インターネットの世界の多様性は更にそれらを増幅させています。イラクで実際に起きていることは、ゲームでも映画でもないのです。撃たれば死に、撃てば殺す、命のやり取り、戦争なのです。

イラクへの自衛隊派遣はイラク国民、イスラム社会に対して、効果があるかどうかは別として、自衛隊派遣は、戦争参加、米英軍支援にしかないのです。イラク国民やイスラム社会には全く関係ないこと、日本本土がイラクから遠く離れた戦場とテロ攻撃の対象となったことを意味するのです。国民の安全が脅かされることを知っておかなければなりません。米軍は、自衛隊派遣とは思っていないらしく、日本軍派兵部隊が、米英同盟軍に参加して、共に闘うと受け止められているのです。

海外が持つイメージでも、米英軍の同盟軍としての日本軍参戦のためのイラク派兵であると何の疑いもなく、見られていることを知っておくべきです。石原将軍が存命ならば人質たちに「大馬鹿者!!」と怒鳴る以前に、このような政府の動きに反対されていたことだと思います。

「戦争放棄」は国是、全世界への普及の使命がある

あなたも含め私達日本人は、良くても悪くても現行憲法の下に生活しています。「戦争放棄」は、国是として全世界の人々に知らせる使命があり義務があるというのに、その国の選良が自衛隊を完全武装して、イラクに派遣しています。国連協力のため人道復興支援が必要ならば、武器を一切携行せず自衛隊を国土建設隊としてイラクに派遣すべきで、政争の具としている現状は国辱ものです。

それは、過去多くの犠牲になられた方の霊に対しても非礼の極みであります。「戦争放棄」の憲法が生きていたからこそ、経済支援では大手を振れる貢献が出来る結果を出したことをよく噛みしめ、その事実を全世界に強調すべき使命もあることを忘れないで欲しいのです。

石原莞爾将軍は戦争に対する見通しを的確に把握し、近い将来戦争はなくなり、人類後史への出発、即ち搾取と戦争のない新文明が開くと予言しました。その亡くなる前年、「日本は蹂躪されても、かまわないから、我々は絶対に戦争放棄に徹して生きていくべきです。ちょうど聖日連が龍ノ口に向かって行くあの態度、キリストが十字架を負って刑場に行く時の態度を、われわれは国家としてとる」

「将軍の辛口は知る人ぞ知ると聞く」と言いますが、それは弱者を陥れるようなものではありません。「強気をくじき弱きを助ける」精神です。石原莞爾将軍は誰にでも分け隔たりなく接し愛に溢れたところに同志達は惹かれていったのだと確信しています。よって、斉藤基樹さんの立論はとんでもない妄想です。

父たち同志が新アジア連盟を立ち上げた昭和 49 年暮れに、「イスラエルを日本に迎えよう」とのキャッチフレーズで中東問題の提案をしたことがあります。当時 300 万人ほどのイスラエルの人々を、北海道の一部「根釧原野」の未開拓地を割譲し、共に同居国家として、それぞれ「武装放棄」し独立する、と提案しています。一笑に付されますか？ 真実、日本の使命は命を賭して全世界の国々に「戦争放棄」の憲法を持たせ実行させることだ、と希求します。